

高岡市万葉歴史館

万葉歴史館は、「万葉集」と万葉の時代を探求するため、広く関係資料・文献・情報等の収集、整理、調査、研究を行い、その成果を公開するとともに、展示、出版や教育普及などの活動を通じて、次のような機能を果たしています。

■展示機能

「万葉集」に親しむとともに、様々な知識が得られます。

■教育普及機能

地域住民を対象とした館内活動（学習会・講演会）や臨地学習会などの屋外活動を行っています。各種出版物を編集し、発行しています。



■調査・研究・情報収集機能

「万葉集」の専門的研究をすすめ、資料・文献などを収集し、保存しています。
「万葉集」の研究や情報収集の場を提供します。
図書や収蔵資料を公開し、閲覧できます。



■観光・交流機能

万葉の自然とふれあう、やすらぎとういの場を創出しています。
周辺観光の拠点施設となっています。



■JR・あいの風とやま鉄道 高岡駅より
●バス・西回り伏木循環線 東回り循環線
いずれも伏木一宮下車・徒歩7分
●JR水見線・伏木駅下車・徒歩5分
■能越自動車道・高岡北ICより車で20分

高岡市万葉歴史館“万葉を愛する会”
会員募集
■年会費2,000円

高岡市万葉歴史館

〒933-0116 富山県高岡市伏木一宮1丁目11番11号
TEL.0766-44-5511 FAX.0766-44-7335
E-mail manreki@office.city.takaoka.toyama.jp
[ホームページ] http://www.manreki.com
(平成27年7月作成)

利用のご案内

・開館時間：4月1日～10月31日 午前9時より午後6時まで
(入館は5時15分まで)
11月1日～3月31日 午前9時より午後5時まで
(入館は4時15分まで)

・休館日／毎週火曜日
(休日・あたる時はその翌日)
年末年始
(12月29日～1月3日)

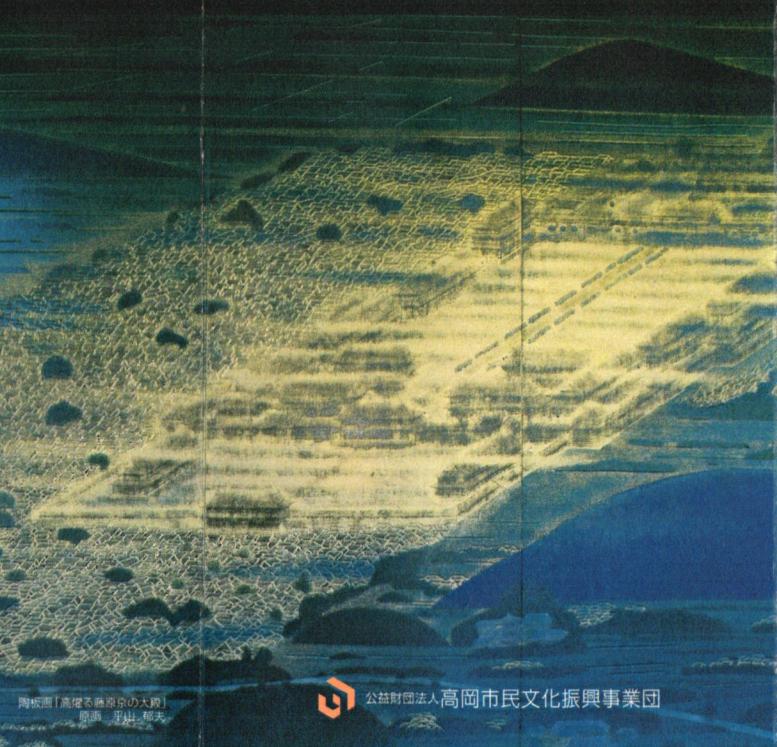
観覧料	個人	団体(20人以上)
一般	210円	170円
小・中学生	無料	

*満65歳以上の一般個人の方は、180円
*特別企画展を行う場合に、別料金とする場合があります。

高岡市万葉歴史館

TAKAOKA MANYO HISTORICAL MUSEUM

「万葉集」の代表的歌人であり編者ともされる大伴家持は、今から約1270年前、越中国守としてこの高岡の地に5年間在任しました。その間、「万葉集」全巻の収載歌約4500首のうち、家持によって越中で詠まれた歌は220余首であり、さらにゆかりのある歌を加えれば337首にもものぼります。この地の美しい風物を詩情豊かに詠んだこれらの歌は、“越中万葉”として、いまなお光彩を放っています。このようのことから高岡市は、大伴家持を通して「万葉集」の全国有数の故地のひとつとなっています。



公益財団法人高岡市民文化振興事業団

万葉をはぐくんだ風土

雪と風のきびしい越中の気候

花々の咲ききそう美しい自然

あたたかい人々の心が

家持の歌をはぐくんだ

しなざかる越

あまさかる郷

その風土が各地で

万葉の歌と人をそだてた。

雄神川 紅にはふ 少女らし
葦附採ると 濑に立たすらし

もののふの 八十をとめらが 波み乱ふ
寺井の上の 聖香子の花



ふるさとの万葉

常設展示

テーマ

■万葉集とは

万葉集は、奈良時代末(770~782年)ごろに大伴家持が最終的にまとめたと推定されている全20巻からなる現存最古の歌集です。収められている歌は、一般には「国歌大觀」の数え方に従って4516首と数えています。

雄略天皇(巻1・1)や聖德太子(巻3・415)が詠んだと伝承されている歌などもありますが、実際には舒明天皇の歌(巻1・2)にはじまり、奈良時代の大宝宝字3年(759年)の大伴家持の歌(巻20・4516)までの約130年間を中心とする、天皇・皇后から名もなき人々の歌までがおさめられた一大歌集です。



越中万葉の世界

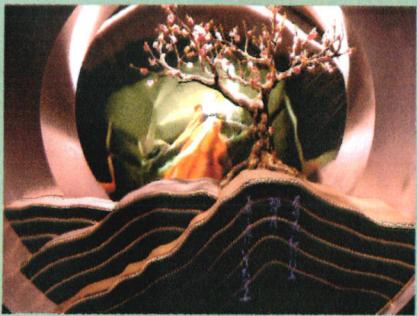
『玉くしげ 二上山に 鳴く鳥の 声の恋しき 時は春にけり』

(巻17・3987 大伴家持)

この歌は、私たちの耳に親しい万葉の秀歌です。越中における家持歌は、その自然詠に大きな特色があるといいましょう。二上山の賦・布勢の水海に遊覧する賦・立山の賦をはじめとする風物詩。そして洪羽の崎・奈呂の海・三島野・麻都太江の浜・姫負の野・雄神川・射水川・垂姫の浦・石瀬野などの地名を詠み込んだ諸作は、越中万葉に新鮮な味わいを与えます。

また、自然詠の中に数えるべきものとして、「あゆの風」「あしづき」「ほよ」「つまつま」「かたかご」なども、越中万葉独自の題材といってよいでしょう。

なお、このほか家持歌には郷愁の歌、無常感を詠じた歌、妻恋いの思いを歌ったものなど、注目に値する作品が数多くあります。



■メディアボックス

越中の風物を愛し、歌にした家持。その家持が好んで歌に詠んだ花や鳥、それらを歌と対比させながら、最新の映像装置で楽しく鑑賞することができます。

■四季のシンボル造形

越中万葉を育んだ自然を、四季の移り変わりの中で象徴的にとらえ、優れた音響効果と映像効果によって表現します。



敷地・建物の規模

- 建設年月：平成2年10月
- 敷地面積：10,405.94m²
- 建物構造：鉄骨・鉄筋コンクリート造平屋建（一部地階）
- 建築面積：1,837.92m²
- 建築延床面積：2,486.26m² (地階620m² 1階1,837.92m² 2階28.34m²)

四季の庭

万葉集ゆかりの草花や樹木が、それぞれの四季を趣き深く彩ります。



ほよ (ヤドリギ)



かたかご (カタクリ)

越中国と万葉集

大伴家持が越中國守となって北陸の地に来たことにより「越中万葉」は生まれました。

家持は、越中國の古代を「万葉集」に書き残しました。そこには、古代越中の風土や四季の姿が詳細に描かれています。その越中國は、時を経て加賀藩前田家のものと、万葉故地の顕彰・保存や研究に多大な貢献を成したのです。企画展示では、越中國と万葉集の関わりをご紹介します。

●グラフィックパネル

- 「はじめに」
- 「古代の越中」
- 「越中國守大伴家持I・II」
- 「越中の四季 春・夏・秋・冬」
- 「前田家と万葉集」
- 「越中万葉研究の歩み」
- 「近代歌人の越中万葉」
- 「古代の越中國と越中万葉の年表」



●主な展示品

- 越中國印
- 越中國府台地ジオラマ
- 越中國守大伴家持の朝服(複元品)
- 越中國開田図などの原寸大複製
- 難波津木簡(複製品)
- 東大寺開田図(複製品)
- 鳥毛立女屏風(正倉院宝物 複製品)
- ホトギス(木彫)



●万葉集古写本コーナー

- 桂本万葉集(複製)
- 金沢本万葉集(複製)
- 万葉集断簡など